

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。



Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です!

「富士見 森のオフィス」で地域おこし協力隊として働いている渡辺葉です。シェアオフィスに入居されている8社を順次紹介しています。

今回は森のオフィスで働いているエフィシエントの社員の皆さんに、エフィシエントはどんな企業なのか、また富士見と森のオフィスの感想を聞いてみました。



【会社紹介】

会社名：エフィシエント株式会社

本社所在地：東京都港区東麻布3-2-1 狸穴アーケビル 1F

HP：http://eft-jp.com/

【事業内容】

2016年4月の電力完全自由化以降、新たに電力事業へ参入した企業（小売電力事業者）に対して業務支援・代行をおこなう会社です。

【富士見 森のオフィスでやりたいこと】

小売電力事業の業務代行をおこなう、サテライト・オフィスを開設しています。

常勤メンバーには、自然に囲まれた落ち着いた環境で、小売電力事業会社のバックオフィス業務に取り組んでもらいます。

緊急時の代替オフィスという拠点機能もあり、東京のメンバーとの日常的な行き来も含め、2拠点での新しいワークスタイルをつくっていくことを考えています。



▲左から 永井さん、新田さん、津田さん、長谷川さん

●富士見に引っ越して来てみて

静かというのと、大自然に囲まれた環境で、以前よりさらにゆったり過ごせるようになってよかった。(津田さん)

●森のオフィスで働いてみて

他の企業との交流があることが、他にはない良さだと思う。

景色の良いのが好き。デスクから眺める白樺の木が好きです。(永井さん)

Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ

富士見町子ども読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

境小学校 読書活動紹介

境小学校では、毎朝始業前の10分間を朝読書の時間として位置づけています。各クラスにあわせ、担任が読み聞かせを行ったり、個々に選んだ本をじっくり読んだり、本に親しむ時間を楽しんでいます。静かに本と向き合う時間を取ることで、落ち着いた気持ちで1日をスタートさせることが出来ます。

また、毎月第2火曜日は読書ボランティアとしてふじみ子どもの本の会・朗読の会のみなさんや保護者のみなさんが読書の時間に読み聞かせに来て下さっています。富士見に昔から伝わる民話の語りや外国の絵本。お家でのお気に入りの絵本だったり、ときにはいろいろな本の紹介をしてくれるブックトークだったり。様々なジャンルの本に触れるとても良い機会です。子どもたちの新たな本の世界を広げる窓口としても充実した時間となっています。本と子どもたちの出会いの場をこれからも大切に行きたいと思います。

読書ボランティアさん募集!

毎月第二火曜日の8:20~8:30に本の読み聞かせをして下さるボランティアさんを募集します。ご興味のある方、境小までご連絡下さい。

☎64-2014
(担当 松本)



▲朗読の会の方の読み聞かせ



▲保護者の読み聞かせ

◆松島 智彦さん、明子さん（立沢）

キク農家をめざし里親農家さんの下、去年の4月から2年間の研修を受けさせて頂いています、松島智彦・明子と申します。子2人の4人家族で、去年の春に岡谷から富士見町へ移住してきました。

私は長崎県の出身ですが、地元でいた時からずっと将来農業をやりたいと思っていました。中学1年生の頃、担任の先生の影響で花作りに興味を持ったことが始まりで、地元長崎の農業高校、富士見町のお隣の原村にある八ヶ岳中央農業実践大学校へ進学、原村の農業法人で5年程勤めていました。その後会社員として勤務していましたが、子供含め家族で良く話をしまして農業をするのは今しかないと決断しました。数年前、私の両親が長崎から富士見町へと移住してきました。研修は受けない形でキク農家になりましたが、周りの方々の助けもあり父が亡くなるまでキク作りをすることができました。両親が富士見町でキク農家として土台を作ってきたおかげもあり、私達は地域の方と接する機会が多くあるように思います。研修の中でいろんな教えがありましたが、特に時間の大切さを感じることができました。ある時間の中で無駄なくどう時間を使うか、重要な課題かと思いました。

来年4月から家族5人で協力しながら本格的にキク農家となります。

里親さんからのたくさんの学びを存分に活かし、富士見のキクの素晴らしさをいろんな方に感じてもらえるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの場所から~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

子どもの自由な時間

先日、県のある研修会で、「保育と自然環境」をキーワードに、公立保育園、私立幼稚園、認可外保育施設の保育士、幼稚園教諭が集まってお互いの保育実践を紹介しながらディスカッションする機会がありました。子どもの育ちに自然体験が必要であることを認め、保育の現場に自然体験をより多く取り入れることを推奨した長野県信州自然型保育認定制度が施行されてから、県下の各園では、子どもの自然体験への関心が高まっています。そんな中、自然保育の質の向上を目指して開催された研修会です。

ディスカッションの中でのある公立保育園の先生の「目的地を目指す散歩は、計画通り時間に沿って目的地に向かい、行った先で目的の活動をして、時間通り帰ってくるので、途中子どもたちが興味を惹かれる事や物に出会っても、なかなか時間をかけてあげられない。どうしても保育者主導になってしまう。でも目的地を設定しない自由な散歩では、子どもたちは歩きながらいろんな発見をしたり、心を動かすことに出会ったりする、保育者も気持ち的に余裕があるので、子どもの発見や感動の声をたくさん拾える」というお話が印象的でした。「大人が子どもの育ちを考えて目的地を設定する場面と、子どもの自由を保障する時間。保育や子育てにはこの両方がバランスよく組み合わせるのがいい」と参加者全員で確認できた研修会でした。



▲アスファルトにできた水たまりを駆け抜けるとしぶきがあがって楽しい!



▲雨の日も、カッパを着てさんぽに出てみよう。雨の日ならではの発見があります。



▲白さが映えるそばの花も子どもたちの心を動かします。